

[畑作部門 令和4年度 指導参考資料]

事項名	液状亜リン酸肥料の葉面散布による耐病性向上作用を利用した大豆の黒根腐病の被害軽減（開花期までの散布適期拡大）（追加）		
ねらい	大豆の黒根腐病に対し、液状亜リン酸肥料を6葉期に葉面散布することで、耐病性が向上して被害を軽減することができる（令和3年度指導参考資料）。ここでは、同病を対象に、さらに開花期までの散布適期拡大を検討した結果、6葉期と同程度の被害軽減効果が確認されたので参考に供する。		
指導参考内容	<p>1 大豆の黒根腐病に対し、液状亜リン酸肥料（商品名「サンカラー」、N:P₂O₅:K₂O=0:28:26）を開花期に葉面散布した場合でも、6葉期の散布と同程度の被害軽減効果が得られる。</p> <p>2 地上散布の場合は、500倍希釈液を10a当たり100～150L、6葉期から開花期までに葉面散布する（図1、2）。</p> <p>3 空中散布の場合は、同時期に8倍希釈液を10a当たり1.6L葉面散布する（図2）。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  </div> <p>健全株（発病指数0） 軽症株（同1） 重症株（同2） 重症株（同3）</p> <p>写真 大豆の黒根腐病による根元の被害症状</p> <p>発病度 = Σ（発病指数別株数 × 発病指数） × 100 ÷ （調査株数 × 3）</p>		
期待される効果	耕種的な方法によって大豆の黒根腐病の被害を軽減でき、安定生産に寄与することができる。		
利用上の注意事項	<p>1 本資料における圃場試験の結果は、クルーザーMAXXによる種子消毒を行った上での結果に基づいている。</p> <p>2 発生が多い圃場では被害軽減効果が低下するので、排水改善対策の併用、連作回避等を図る。発生が少ない圃場でも、これらの基本対策を講じる。</p> <p>3 液状亜リン酸肥料にはいくつかの商品があるが、本試験では「サンカラー」を使用している。</p> <p>4 初発が開花期前に見られた場合には、速やかに散布を実施する。</p>		
問い合わせ先（電話番号）	農林総合研究所 病虫部（0172-52-4314）・作物部（0172-52-4396）	対象地域 及び経営体	県内全域の大豆 作付経営体
発表文献等	令和2～3年度 農林総合研究所試験成績概要集 第75回 北日本病害虫研究発表会（予定）		

【根拠となった主要な試験結果】

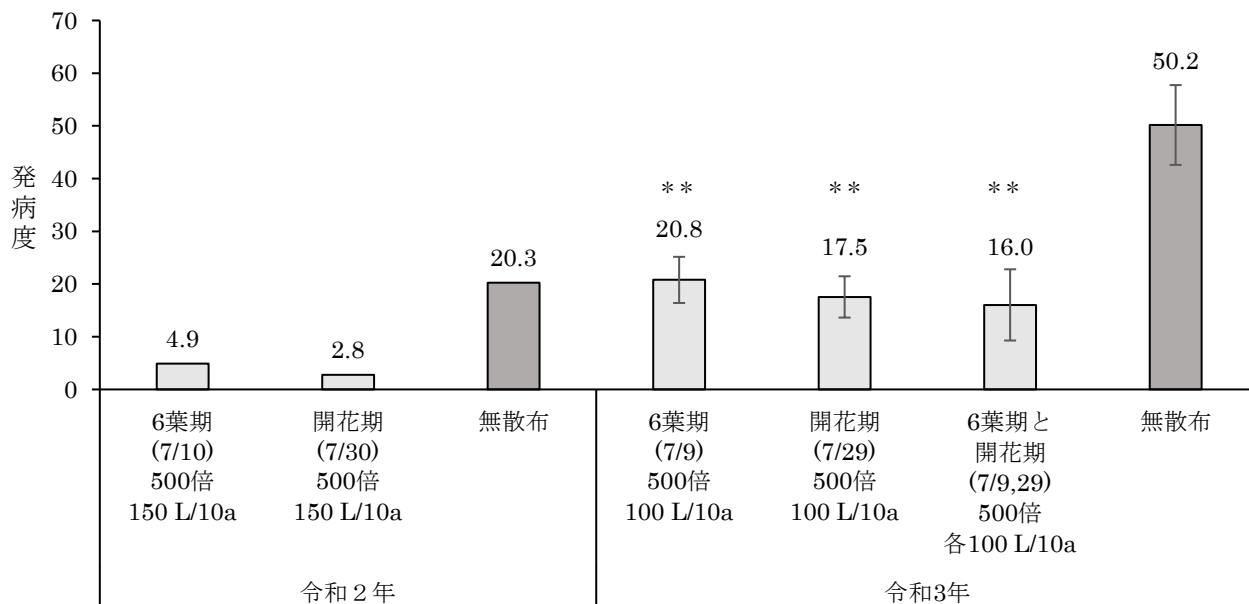


図1 黒根腐病に対する液状亜リン酸肥料葉面散布の被害軽減効果（所内圃場試験）

（令和2～3年 青森農総研）

- (注) 1 液状亜リン酸肥料は「サンカラー」の500倍希釈液を使用、供試品種は「おおすず」（クルーザーMAXXによる種子消毒を実施）。
- 2 根部の発病度は全株を対象とした各試験区（令和2年度は2区制、3年度は5区制）の平均値を示す。
- 3 バーは標準偏差、**は無散布区に対してMann-Whitney U検定における1%水準の有意差があることを示す。
- 4 根部採取日は、令和2年度が10/9、令和3年度が10/12。

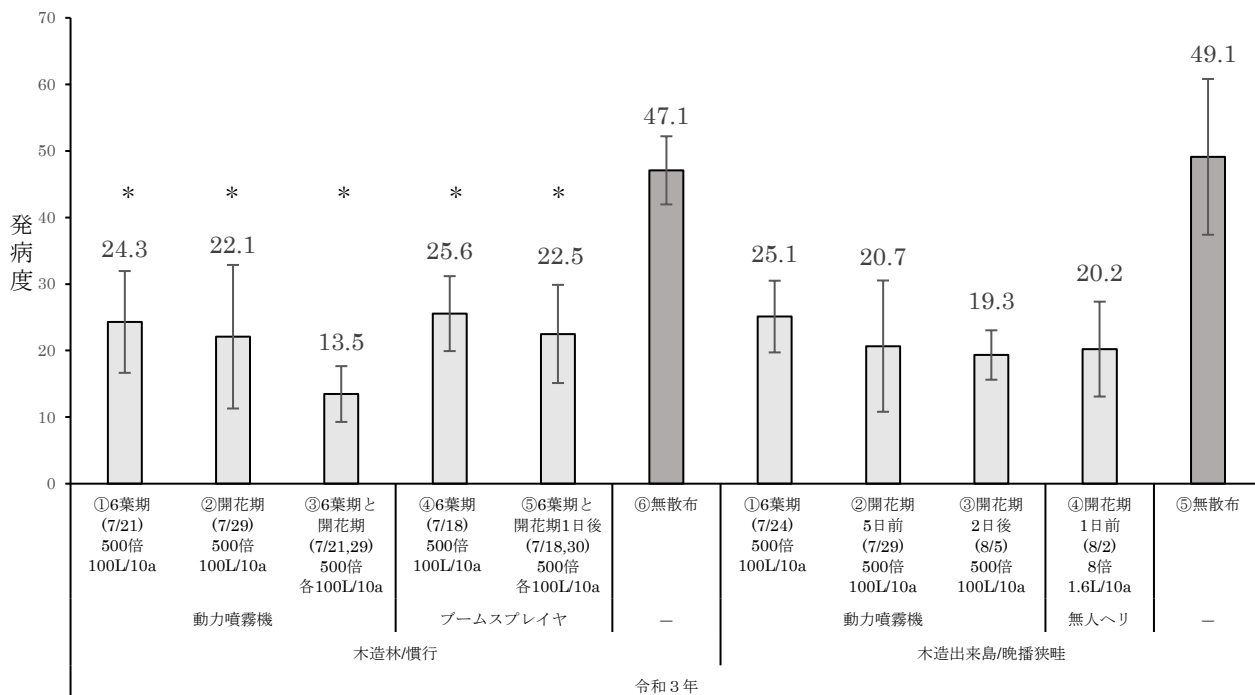


図2 黒根腐病に対する液状亜リン酸肥料葉面散布の被害軽減効果（現地圃場試験）

（令和3年 青森農総研）

- (注) 1 液状亜リン酸肥料は「サンカラー」、供試品種は「おおすず」（クルーザーMAXXによる種子消毒を実施）。
- 2 根部の発病度は全株を対象とした各試験区（3又は4区制）の平均値を示す。
- 3 バーは標準偏差、*は無散布区に対してMann-Whitney U検定における5%水準の有意差があることを示す。
- 4 ()内は散布日を示し、根部採取日は全て10/15。

参考価格：サンカラー 5,680円（税込み）/1L、500倍・100～150L/10a 散布で約1,140～1,700円
8倍・1.6L/10a 散布で約1,130円